

B—79 小・中学生のスラックス製作に関連のある 身体計測値について

昭和学院短大	桃	チヨ
和洋女子大	星加	キミエ
千葉大教育	○松山	容子
昭和学院短大	岡村	信子

1. 衣服の寸法・原型を設定することを目的として、昭和41年7月、小・中学生を対象とし、25項目の身体計測を行なった。今回はこの中からスラックスの製作に関連の深い項目をとりあげ、性別・年齢別に集計整理し、考察した。

2. 資料は千葉市内に在住する男・女小・中学生合計895人の身体計測値である。研究項目は身長・後胴高・股の高さ・膝関節高・外果高・胴囲・腰囲・大腿最大囲・股上前後長、および計算してえた股上の合計10項目である。

3. 各部位とも加齢に伴って増加する。成長の経過を男女間で比較すると、身長・股の高さ・膝高では、9歳頃までの男子が優れ、10・11歳頃女子優位となり、12・13歳以後ふたたび男子が女子を上まわり、差は高年齢ほど大きい。後胴高では、12歳までは女子優位であるが、その後男子が優れる。腰囲・大腿最大囲・股上前後長・股上では女子が常に優れ、高年齢ほど差は大きい傾向にある。胴囲では男子が常に女子を上まわる。

部位間の相関については、後胴高・股の高さ・膝高は、身長に対して比較的高い相関を示し、大腿最大囲・胴囲・股上前後長は腰囲に対して比較的高い相関を示す。これらのことは各年齢を通じ、男女共通にみられる。